

3月

10日(金)	●特別区保健師業務連絡会	[東京区政会館]
15日(水)	●第6回機関誌「東京の国保」編集委員会及び広報に関する連絡会	[本会]
17日(金)	●国民健康保険組合東京協議会幹事会	[港区]
24日(金)	●国民健康保険組合東京協議会連絡協議会	[本会]
27日(月)	●特別区国民健康保険担当課長会	[東京区政会館]
29日(水)	●第2回「東京都国民健康保険ハンドブック」改訂委員会	[本会]

4月

5日(水)	●国民健康保険組合東京協議会監事監査	[本会]
7日(金)	●東京都市国民健康保険協議会幹事会 ●国民健康保険組合東京協議会総会	[東京自治会館] [新宿区]
18日(火)	●国民健康保険組合東京協議会幹事会	[新宿区]
19日(水)	●東京都市国民健康保険協議会定例会	[東京自治会館]
25日(火)	●国民健康保険組合東京協議会連絡協議会	[本会]

5月

8日(月)	●東京都市国民健康保険協議会幹事会	[東京自治会館]
-------	-------------------	----------

北斎が描いた野鳥たち

—その六— (最終回)

梅干しは語る — ウグイス

「梅に鶯」は、早春のシンボル。日本人には、あまりにもなじみ深い鳥である。

しかし、実際のところ、ウグイスが梅の木にとまることはあまりない。モデルとなっているのは、鶯色の鳥メジロだという。

さて、老女の常套句「鶯鳴かせたこともある」とは、「(今は梅干し婆さんになった私も、)昔は、あまたの男性から言い寄られたのよ」という意味。ここでいう「鶯」は男性、「梅」は色香漂う若き日の自分(老女)を指す。

ところで、「鳴かせる」とは「言い寄られる」の意で、「泣かせる」ではない。相手がちょっと引いた時は、説明が必要だ。

鶯
うぐいす



葛飾北斎「北斎漫画」より
墨田区蔵